

新基地建設反対名護共同センターニュース

赤土の搬出を通常の3分の1に抑えた！ 「塩川デイ」1日目、90人が参加 ダンプ通過は205台のみ



「塩川デイ」では、港内が抗議参加者と民間警備員、機動隊、ダンプカーが入り混じり騒然とした雰囲気が終日続きました。抗議の参加者の1人は「これが民衆による非暴力のたたかいですね」と語っていました。

本部町島ぐるみ会議が呼びかけた「塩川デイ」(21、22日)の第一日目。この日、地元以外にも県内の中南部や県外からの支援者が塩川港駆け付け90人を数えました。同会議の原田みき子さんは「通常10人前後の抗議行動で600台、650台分のダンプカーの土砂の搬出がありませんが、21日は205台、大型運搬船一隻分にとどめることができました。人が多く集まれば新基地建設を遅らせ、中止させることができると確信できました」と話しました。

人が多く集まれば新基地は中止できる

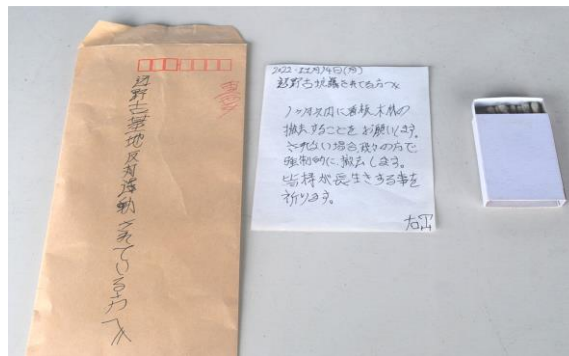
瀬嵩公民館に大浦湾の貝類を展示

名護市のダイビングチーム「すなっくスナフキン」(西平伸代表)が大浦湾で収集した貝類などをこれまで西平さんの自宅宅で保管してきましたが、11月から名護市瀬嵩区公民館に移し、展示コーナーを常設しました。辺野古・大浦湾は国連NGOのミッション・ブルーが日本初の「ホットスポット」(希望の海)として認定した貴重な海です。日本で5000種いると言われる貝類のうち約2000種が大浦湾で収集され、人の頭ほどの貝から米粒ほどの貝までその大半の貝類が展示されています。



【入場無料】

辺野古のテント村に脅迫文



「こんなこととは初めて。卑劣な行為に私たちが引き続きたかきよを続けたい」と訴えました。高里代表が110番通報し、県警が手紙を回収しました。

キャンプ・シュワブゲート前のテント村に16日、「1か月以内に看板、木材の撤去をお願いします。されなければ我々が撤去します」などと書かれた手紙とマツチ箱が入った封筒が置かれていました。見つけた男性は「マツチも入っており脅迫としか受け取れない」と話しました。ゲート前に座り込んだ約30人の前で司会の沖繩平和市民連絡会・高里鈴代共同代表が

照屋副知事が沖商連で講演

沖縄県の照屋義実副知事が20日、浦添市内で開かれた沖縄県商工団体連合会(沖商連)主催の役員研修会で講演しました。照屋氏は県商工会連合会会長を歴任した経験を踏まえ、事業者団体の要求を県政に反映させ業者支援策を講じてきた実績や、県民が「オール沖縄」に結束し平和で豊かな沖縄をめざす重要性と展望を語りました。



写真=沖商連の役員研修会で講演する照屋氏。30数人を前に約60分間、縦横に語りました。

“不屈にたたかう県民の歴史に確信を” 治安維持法同盟などが復帰50周年のシンポ

治安維持法同盟九州・沖縄ブロックとあけぼの印刷(株)の共催で19日、本土復帰50周年「平和で豊かな沖縄の実現を！」のシンポジウムを那覇市内で開催、60人が参加しました。同同盟本部村山純会長が基調報告し、比嘉愛子元浦添市議、比嘉端己沖縄県議、野垣麦民青同盟沖縄県委員長がパネリストとして意見を述べました。村山氏は、県民の戦前戦後の歴史を振り返り、自公政権がすすめる戦争への道を許さないために「不屈にたたかってきた県民の歴史に確信を持つ」と強調しました。当日、あけぼの印刷(株)創立60周年記念祝賀会も行われました。



写真=基調報告を行う村山氏(中央)